

<b>会議記録（要点筆記）</b>																																															
委員会名		秦野市子ども・子育て会議(令和元年度第3回)																																													
日時	令和元年9月3日(火) 13:30~15:00	場所	秦野市役所本庁舎3階 講堂																																												
出席者	<table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;">[委員氏名]</td> <td style="text-align: center;">[所属団体等]</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小林 正稔</td> <td>:</td> <td>神奈川県立保健福祉大学教授</td> <td>(会長)</td> </tr> <tr> <td>小林 徳博</td> <td>:</td> <td>元・二宮町教育委員、元・小学校長</td> <td>(副会長)</td> </tr> <tr> <td>大澤 一之</td> <td>:</td> <td>民間幼稚園長</td> <td></td> </tr> <tr> <td>草山 充</td> <td>:</td> <td>秦野市私立保育園園長会</td> <td></td> </tr> <tr> <td>串田 祐基</td> <td>:</td> <td>地域型保育事業者</td> <td></td> </tr> <tr> <td>佐々木 陽一</td> <td>:</td> <td>公共経営支援センター</td> <td>コンサルタント</td> </tr> <tr> <td>鈴木 歩</td> <td>:</td> <td>秦野市民間保育園主任の会</td> <td></td> </tr> <tr> <td>清水 幸代</td> <td>:</td> <td>市民委員</td> <td></td> </tr> <tr> <td>内藤 剛彦</td> <td>:</td> <td>秦野伊勢原医師会</td> <td></td> </tr> <tr> <td>府川 優樹</td> <td>:</td> <td>秦野市学童保育連絡協議会</td> <td></td> </tr> </table>			[委員氏名]	[所属団体等]			小林 正稔	:	神奈川県立保健福祉大学教授	(会長)	小林 徳博	:	元・二宮町教育委員、元・小学校長	(副会長)	大澤 一之	:	民間幼稚園長		草山 充	:	秦野市私立保育園園長会		串田 祐基	:	地域型保育事業者		佐々木 陽一	:	公共経営支援センター	コンサルタント	鈴木 歩	:	秦野市民間保育園主任の会		清水 幸代	:	市民委員		内藤 剛彦	:	秦野伊勢原医師会		府川 優樹	:	秦野市学童保育連絡協議会	
[委員氏名]	[所属団体等]																																														
小林 正稔	:	神奈川県立保健福祉大学教授	(会長)																																												
小林 徳博	:	元・二宮町教育委員、元・小学校長	(副会長)																																												
大澤 一之	:	民間幼稚園長																																													
草山 充	:	秦野市私立保育園園長会																																													
串田 祐基	:	地域型保育事業者																																													
佐々木 陽一	:	公共経営支援センター	コンサルタント																																												
鈴木 歩	:	秦野市民間保育園主任の会																																													
清水 幸代	:	市民委員																																													
内藤 剛彦	:	秦野伊勢原医師会																																													
府川 優樹	:	秦野市学童保育連絡協議会																																													
欠席者	<table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;">[委員氏名]</td> <td style="text-align: center;">[所属団体等]</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鈴木 泉</td> <td>:</td> <td>神奈川県平塚児童相談所</td> <td>子ども相談課長</td> </tr> <tr> <td>吉田 信貴</td> <td>:</td> <td>秦野市PTA連絡協議会</td> <td></td> </tr> </table>			[委員氏名]	[所属団体等]			鈴木 泉	:	神奈川県平塚児童相談所	子ども相談課長	吉田 信貴	:	秦野市PTA連絡協議会																																	
[委員氏名]	[所属団体等]																																														
鈴木 泉	:	神奈川県平塚児童相談所	子ども相談課長																																												
吉田 信貴	:	秦野市PTA連絡協議会																																													
<table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;">[事務局]</td> <td></td> </tr> <tr> <td>こども健康部</td> <td>子育て総務課長 保育こども園課長 保育こども園課課長代理 こども家庭支援課長 こども育成課課長代理</td> </tr> <tr> <td>教育部</td> <td>教育総務課課長代理</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">[その他]</td> <td></td> </tr> <tr> <td>こども健康部長</td> <td></td> </tr> </table>		[事務局]		こども健康部	子育て総務課長 保育こども園課長 保育こども園課課長代理 こども家庭支援課長 こども育成課課長代理	教育部	教育総務課課長代理	[その他]		こども健康部長		<table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;">[庶務担当（こども健康部子育て総務課）]</td> </tr> <tr> <td>課長代理 主任主事</td> </tr> </table>		[庶務担当（こども健康部子育て総務課）]	課長代理 主任主事																																
[事務局]																																															
こども健康部	子育て総務課長 保育こども園課長 保育こども園課課長代理 こども家庭支援課長 こども育成課課長代理																																														
教育部	教育総務課課長代理																																														
[その他]																																															
こども健康部長																																															
[庶務担当（こども健康部子育て総務課）]																																															
課長代理 主任主事																																															

議事内容	1 開 会 2 会長あいさつ 3 議 事 (1) 第2期秦野市子ども・子育て支援事業計画（素案）について 4 閉 会
配付資料	次第 委員名簿 【資料1】第2期秦野市子ども・子育て支援事業計画（素案）骨子 【資料2】第2期秦野市子ども・子育て支援事業計画（素案）

### [1 開会]

#### ○事務局

（12名の委員のうち10名の出席があったため、秦野市子ども・子育て会議条例第5条第2項の規定により、会議が成立していることを報告）

### [2 会長あいさつ]

### [3 議 事]

#### (1) 第2期秦野市子ども・子育て支援事業計画（素案）について

#### ○事務局

（「資料1」及び「資料2」に基づいて説明）

#### ○会長

子育て短期支援事業（ショートステイ事業）については、秦野市として事業を実施していくという意向ならば、直接施設と調整するのであってほしい。

#### ○委員

病児保育事業とあるが、この事業はいつからでてきたのか。市がやるべきことなのか。病院がやっていくという認識を持っているが。

#### ○事務局

病後児保育事業は、病気の回復期のお子さんを保育するもので、本市では平成26年からひろはたこども園で実施しています。一方、病児保育事業は、入院とならないまでも、高熱がある、一定の範囲内の感染症のお子さんを保育する事業です。

病児保育事業の方がニーズが高いという認識があり、本市でも実施したいと考えていますが、医師、看護師との連携や個室が必要という要件があることから、実施に至っていません。現在も実施に向けて医療機関と調整をしているところです。

#### ○委員

秦野市では病児保育はまだ実施していないが、ニーズがあるから記載しているとい

うことでよいのか。

○事務局

そのとおりです。病児保育の実施については、実施に向けてどういう方向でできるか継続して検討していきます。

○会長

この記載だとおひさまルームで病児を預かっているようにイメージされてしまう。記載の仕方を整理する必要がある。病後児はおひさまルームで対応できますという形で記載するとよい。

○事務局

修正します。

○委員

障害児に対する統合保育・教育の実施について、これまで幼稚園、保育所では集団の中で加配対応してきたが、この計画では、指導者の資質の向上の部分についての記載が多く、なんでも加配ではない、指導者の指導力を高めて対応するというように読み取れるが、加配対応も引き続き実施するという認識でよいのか。

○事務局

障害福祉課、教育指導課を中心として、早期療育の対応についての会議、現場の確認を行い、統合教育が必要か判断した上で加配対応をしています。市の役割としては、支援が必要なお子さんも集団の中で公平に教育を受けるとの視点から、引き続き統合保育・教育を実施していきます。

○委員

放課後児童健全育成事業（放課後児童ホーム）について、「学校区で見ると見込み量を確保できない可能性があるため、放課後子ども教室で受入れを検討していきます。」と記載があるが、児童ホームの見込み量を確保できない学校でだけ放課後子ども教室を実施するということなのか。国の方針は、放課後子ども教室を推進し、広めていくという方針だったと認識しているが。

○事務局

放課後子ども教室については、国の「新・放課後子ども総合プラン」において、放課後児童クラブとの一体での実施を推進しています。本市においても放課後子ども教室を全市的に行っていきたいと考えており、現在検討を進めています。確保できない可能性がある学校に限って放課後子ども教室で対応するということはありません。

○委員

ずっと検討が続いているので、具体的にしてほしい。

○会長

ネガティブな記載が多く、自己防衛をしているように見える。放課後児童クラブとどのように連携していくとか、連携することで必要量を確保するように努めていきま

す、と書く必要がある。子育てに関する事業なのだから、ポジティブな表現で記載した方がいい。

統合保育についても、「臨床心理士」と記載があるが、今はこういう書き方はしない、「臨床心理士」イコール発達が分かっているというわけではないので、「専門家」とか「心理士等」という記載が良いと考える。

○委員

普通級の児童でも、障害の疑いのある児童が何人かいるが、療育手帳が無いと加配の助成が受けられない、しかし、実際は加配で職員を一名付けている。どこからが加配の対象なのか線引きが分からないので教えてほしい。

○会長

幼稚園の基準で、以前はIQ75以下で日常生活に支障がある場合において、申請をして対象になるとしていたが、明確な基準はない。療育手帳はA、Bしかなく、実際には、IQの数値を基に状況を見て判断している。

○事務局

放課後児童クラブでは、補助金については国の要綱に療育手帳があるお子さんとありますが、基準が明確ではないので、補助金の加算の部分については応相談になってしまいます。

○会長

事業によっても違うので、統一はされていない。誰が診断したかにもよってくる。支援基準としてどのレベルであれば、支援が必要かという基準を策定するのもよいのではないかと考える。ただし、IQの数値で判断するのではなく、保育士の感覚や親の育てにくさをどう査定するかが中心になると思う。

特別支援学校へ入学するのも療育手帳が必要と思われているが、そういうわけではない。しかし、希望者が多すぎてどこかで線引きをしなくてはならないので、県の教育委員会でも内部の基準として、公的機関での診断を受けているお子さんを中心に受け入れている。

国に確認しても裁量と言われるだろう、市としても線引きを考える必要がある。

○会長

47ページの「(2) 子どもに関する専門的な知識及び技術を要する支援に関する神奈川県との連携」は「神奈川県等」と「等」を入れるべきである。県に限らず、近隣の市町村との連携も考えられる。

○委員

制度概要について、国の制度の説明と市の方針が混在していて分かりづらいので、分けて記載すべきである。

計画の基本目標について、「妊娠・出産期から、親子の成長へ切れ目ない支援」とあるが、秦野市には出産できる場がないので、そこに切れ目を感じている。計画に入

れる内容かは分からないが、方向性を出して行ってほしい。

教育・保育の見込み量の表について、0～2歳の人口の推計値が明らかにおかしい。この数値をもとに計画値を出すのはおかしいので見直すべきである。また、「公立こども園5園、民間31園の保育所等において利用定員を上回る弾力的運用を行っています」とあるが、36園全園が弾力的運用を行っているわけではないと思う。7月1日時点では定員充足率は全体で96パーセントと定員を割れている。定数外入所を実施しているのは14園、定員割れが20園、定員ぴったりが2園となっている。需給の関係はしっかりと満たせると考える。現状をしっかりと把握してほしいと思う。

たんぽぽ教室やことばの相談室について、申請者数と実績数の過去の実績を見比べると利用したくても利用できない人がある。適切な時期に検査や訓練が受けられるようにする必要がある。保護者の不安も強い部分なので、保育料を上げるのだからこちらを対応してほしい。

ニーズ調査の結果を見てみると、ぽけっと21よりも園庭解放の利用希望が強い。身近なところに子どもの環境を確保する必要がある。現在園庭解放には補助金が出ていないが、市として推奨していくべきである。

#### ○事務局

教育・保育の見込み量の表の人口推計については、前回ご提示した内容を変更しています。前回の人口推計は、再来年からの次期総合計画策定のために実施した直近の人口推計を使用しています。今回掲載した人口推計は、現行の総合計画に基づく人口ビジョンを使用しています。ただし、見込み量の算定については直近の人口推計を使用しています。人口推計にどちらの数字を記載するかは検討します。

#### ○会長

現在の統計資料はネットでもいろいろ出ているので、どういう統計をどう使うかはよく考えてほしい。

制度概要については、国が示した内容と市の方針について分けて記載してもよいと思う。

#### ○委員

17ページのグラフで母親の就労状況を見ると、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が5割前後存在する。就労している人への支援を手厚くするのはもちろんだが、現在就労していない人たちに対して、どう子どもを産み育ててもらうかを考える必要がある。人数のことを考えるとメインターゲットは、現在就労していない子育て世代となり、そこへのサポートをどうするのかを書かないといけない。

16ページのグラフから、働いていない母親が育児の孤立化で悩んでいることが分かる。孤立化を解消するための施策ができていないのが気になる。

35ページに「子どもの健やかな成長を見守る地域づくり」と記載があるが、少し弱いと思う、これで足りるのか検証し直す必要がある。現在秦野市では、自治会館と

児童館を複合化してコミュニティの拠点にしようという取組みがあるはずだが、ここには出てこない。うたっていることと、中身が少しずれているところがあると思う。

○会長

地域づくりであればいくらかでも入れる内容はあると思う。そういうものを入れてもよいのではないか。確かに保育に欠けるお子さんへの内容が多い。現在就労していない人に対しての支援策も提示していかなくてはならない。就労していない母親に対して子育て支援をすることで、パート等の就労につながっていくようにするという考え方もある。

○委員

9 ページの1号認定の説明で保育の必要性「なし」とあるが、あろうがなかろうかというのが制度の趣旨であり、誤解を生むと思う。

○会長

第6章で、PDCAサイクルとあるが、これはPDS（study）Aに変えてほしい。人に向けてやっていることなので、C（check、点検・評価）ではなく、しっかり、研究、研修するという形にできないか。上からの視線でなく、一緒に研究していくという意味になるので、変更してはどうか。

○会長

今後も気が付いた点があれば市に意見を出してあげてください。パブリックコメントもあるので、そこからどう読みとって活かしていくかも大事な部分である。

この計画は、秦野の子どもたちに対するメッセージでもあるので、夢がある計画になるようにもう一步踏み出してほしい。

#### [4 閉会]